



▶ **前立腺癌PSAスクリーニング:  
真実と誤解の総決算2013**

▶ **座長** 笥 善行 先生  
(香川大学医学部泌尿器科 教授)

▶ **講演者** 伊藤 一人 先生  
(群馬大学大学院医学系研究科 泌尿器科学 准教授)

▶ **日時** 2013年5月18日(土)  
12時10分~13時00分

▶ **場所** 第3会場 (サンポートホール高松)  
第2小ホール

腫瘍マーカー  
PSA II



●本セミナーは整理券(チケット)制となります。



# テーマ 前立腺癌PSAスクリーニング:真実と誤解の総決算2013

座長 笥善行 先生(香川大学医学部 泌尿器科 教授)

講演者 伊藤 一人 先生(群馬大学大学院医学系研究科 泌尿器科学 准教授)

要旨 PSA検診に対する専門機関の意見の対立が広く報道されたことから、医療関係者、行政担当者、また一般住民の中に、「PSA検診の有効性は不明確で、いまだに混沌としている」との印象が強く残っている。

本邦でも2008年に異なった見解が公開され、厚生労働省研究班は、既存研究結果に一致性がなく、無作為比較対照試験(RCT)の結果がでていなかったことを主な理由に、「PSA検診を推奨しない」との報告書を出した。それに対し日本泌尿器科学会は、質の高い既存研究を選別し、「前立腺がん検診ガイドライン:2008年版」をまとめ、RCTで転移癌罹患率低下効果が証明されていたこと、いくつかの信頼性の高い研究で死亡率低下効果が示されていたことから、「PSA検診を推奨する」との方針を出していた。また、最近、米国予防医学作業部会(USPSTF)が2012年5月に、PSA検診は死亡率低下効果に関する科学的証拠がなく、PSA検査の疑陽性、過剰診断・過剰治療の不利益は無視できないことを主な理由に、「PSA検診は無症状の健康な男性に対し実施すべきでない」との勧告を出した。

しかし、2008年に出された厚生労働省研究班のガイドラインは、その後、イエテボリで実施されたRCTの長期観察結果が2010年8月、欧州の大規模RCTの結果が2012年3月に発表され、PSA検診の死亡率低下効果は確実であることが証明されたことから、科学的整合性を失っていることはあまり知られていない。また、USPSTFのPSA中止勧告は、マスコミ報道されたことから多くの人が知ることとなったが、その直後に、「年1回のPSA検診は、米国政府が管轄する医療保険Medicareで支払い継続する」とのオバマ米国大統領宣言(The Obama Administration)が出された重要な事実はほとんどの人が知らない。さらにUSPSTFの勧告内容は、前立腺癌の専門家の見解と異なる点が多く、日本泌尿器科学会と公益財団法人前立腺研究財団は、「USPSTFの勧告内容を、我が国で適用することは適切ではない」との意見を公開している。

今回、1)日本人の前立腺癌の罹患率・死亡率、2)PSA検診の死亡率低下効果、3)PSA検診の不利益、などに関する真実と誤解について、2013年までのPSA検診に関連する国内外の科学的エビデンスに基づいて総決算をする。

## 第62回日本医学検査学会 展示会のご案内

会期

2013年

5月18日(土) 9:00~17:00

5月19日(日) 9:00~15:00

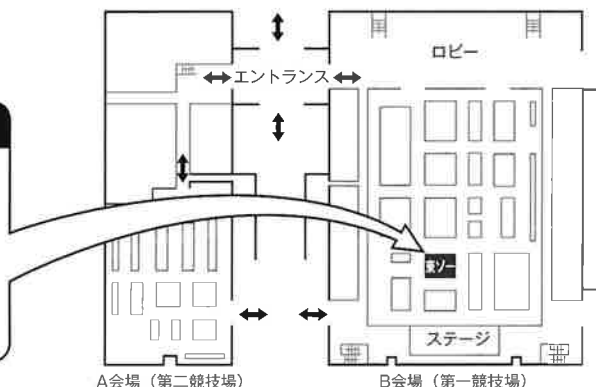
会場

高松市総合体育館

東ゾーブス No.B-27

### 出展品

- 自動エンザイム/Aッセイ装置 AIA-360 / AIA-900 / AIA-2000
- 酵素免疫測定試薬 Eテスト「TOSOH」IIシリーズ
- グリコヘモグロビン分析計 HLC-723G9 / HLC-723GX
- 遺伝子検査システム TRCRapid-160 / TRCRapid-480
- 核酸検出試薬 TRCRapidシリーズ / TRCRtestシリーズ\*(\*研究用)



東ソー株式会社  
バイオサイエンス事業部

東京本社 ☎(03)5427-5181

名古屋支店 ☎(052)211-5730

仙台支店 ☎(022)266-2341

バイオサイエンス事業部ホームページ

大阪支店 ☎(06)6209-1948

福岡支店 ☎(092)781-0481

山口営業所 ☎(0834)63-9888

<http://www.tosoh.co.jp/science/>